

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	キャリアデザイン (Career Design)						科目分類	社会教育主事・社会教育士科目	
担 当 教 員	夏目 千恵子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： キャリアデザインとは、自分の職業人生を自らの手で主体的にデザインすることです。この授業では、主体的にデザインできるスキルを身につけることができるような授業を行います。</p>									
<p>授業目標： (1)キャリア形成の上での転機が存在を知り、立ち止まって振り返り、修正することが可能であることを理解する。(2)自分の意見や考えを他者に伝えることができる。(3)PDCA サイクルに基づいた行動計画を立てることができる。(4)コミュニケーションを図る上で必要なマナーを習得する。以上4点を本科目の目標とします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション キャリアとは何か					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
2	キャリアデザイン1 これまでの自分を振り返る					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
3	キャリアデザイン2 人生における自分の役割					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
4	キャリアデザイン3 未来の自分 (ライフイベント・人生の転機)					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
5	社会を知る1 社会と自分のキャリアの関連性					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
6	社会を知る2 働くとは何か					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
7	社会におけるルールのいろいろ					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
8	社会人基礎力について					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
9	好感をもたれる人「第一印象」					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
10	言葉遣い					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
11	コミュニケーション「聴く、話す、話し合う」					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
12	電話応対					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
13	訪問のマナー					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
14	文書作成					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
15	まとめ					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
<p>教本： 稲本恵子・北村伊都子・白井弘子・田中美和・太原靖一郎・和田百子著「キャリアデザイントレーニング～キャリア理論/自己理解/社会人基礎力」(晃洋書房)</p>					<p>参考文献： なし</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験 (60%)、レポート (20%)、平常点 (20%)。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 変化の激しい世の中では自分のキャリアは自分の力で考えて作っていくことが求められます。自分の将来や大学生活を豊かにしていくためにはどうしたら良いか、授業を通じて考えていきましょう。</p>									
<p>オフィスアワー： 月曜日の昼休み</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	社会教育課題研究 (Studies on Issues in Social Education)						科目分類	社会教育主事・社会教育士科目		
担 当 教 員	増田 裕彦									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>本授業では、生涯学習支援のための社会教育施設の活動や運営における課題について受講者自らが調べ把握する。受講者は、社会教育施設ごとに分担を決めて、その施設の実態を調べ、その課題を見つけ出し、その課題の解決法を案出する。こうした調査研究をする過程で、グループ・ワークやディスカッションの方法も併せて学ぶ。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>テーマ：社会教育施設の課題と運営</p> <p>授業の到達目標：社会教育施設が生涯学習支援のためにかかえる課題を理解し、グループ・ワークやディスカッションを通じ、それらの諸問題について自ら考え発表できる。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
			○			◎				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	イントロダクション					事前：特になし 事後：振り返りペーパー作成		講義 90分		
2	社会教育・生涯教育の法と制度 (1)					事前：参考文献の学習 事後：課題の調査		講義 90分		
3	社会教育・生涯教育の法と制度 (2)					事前：参考文献の学習 事後：課題の調査		講義 90分		
4	社会教育職員の仕事と役割					事前：参考文献の学習 事後：課題の調査		講義 90分		
5	社会教育施設と指定管理者制度					事前：参考文献の学習 事後：課題の調査		講義 90分		
6	社会教育施設をめぐる現状と課題 (1)ーグループ・ワーカー					事前：参考文献の学習 事後：振り返りペーパー作成講義		ディスカッション 90分		
7	社会教育施設をめぐる現状と課題 (2)ーグループ・ワーカー					事前：参考文献の学習 事後：振り返りペーパー作成講義		ディスカッション 90分		
8	社会教育施設をめぐる現状と課題 (3)ーグループ・ワーカー					事前：参考文献の学習 事後：振り返りペーパー作成講義		ディスカッション 90分		
9	社会教育施設をめぐる現状と課題 (4)ーグループ・ワーカー					事前：参考文献の学習 事後：振り返りペーパー作成講義		ディスカッション 90分		
10	社会教育施設をめぐる現状と課題 (5)ーグループ・ワーカー					事前：参考文献の学習 事後：振り返りペーパー作成講義		ディスカッション 90分		
11	社会教育施設をめぐる現状と課題 (6)ーグループ・ワーカー					事前：参考文献の学習 事後：振り返りペーパー作成講義		ディスカッション 90分		
12	課題解決を目指して (1)ー個人研究発表ー					事前：参考文献の学習 事後：振り返りペーパー作成講義		プレゼンテーション 90分		
13	課題解決を目指して (2)ー個人研究発表ー					事前：参考文献の学習 事後：振り返りペーパー作成講義		プレゼンテーション 90分		
14	課題解決を目指して (3)ー個人研究発表ー					事前：参考文献の学習 事後：振り返りペーパー作成講義		プレゼンテーション 90分		
15	まとめ					事前：レポート作成 事後：レポート作成		講義 90分		
<p>教本： 参考文献：</p> <p>堀薫夫・三輪健二「生涯学習と自己実現」放送大学教育振興会、2006年、¥2,700</p>										
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>(1) 授業参加状況等 (40%) (2) グループワークへの参加状況 (30%) (3) 期末レポート (30%)</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>学びの楽しさを体験してほしい。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	実習
授業科目(英文)	社会教育実習 (Social Education Practice)						科目分類	社会教育主事・社会教育士科目	
担 当 教 員	増田 裕彦								
履 修 条 件	前提科目	社会教育経営論Ⅰ・Ⅱ、社会教育支援論Ⅰ・Ⅱを履修していることが好ましい							
	その他	ボランティア論、博物館経営論、高齢化と社会教育を履修していることが好ましい							
<p>授業概要：</p> <p>実習は社会教育の核であることから実習ノートを書かせ、各施設の担当者とのコミュニケーションを取りながら実習を行う。自宅付近の社会教育施設や大学付近の公民館において実践的な実習を行い。実習終了後に内容の検証や反省、まとめをおこなう。従って、土曜日・日曜日の行事が多い。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>課程運営を通じた大学の社会貢献・地域貢献、アクティブラーニング、サービスラーニングによる主体的に社会で生きる力を育成する。また、社会教育施設に関する基本的知識・能力を実習によって獲得することをねらいとする。従って、多様な社会的領域に対応することができる人材の育成を到達目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	社会教育士・主事の仕事と実習について					事前：演習等の科目を復習 事後：各自の予定を確認する		講義	
2	実習を前提とした自宅近隣の社会教育施設を調べ、概要をまとめる。					事前：特になし 事後：施設に実習可能か確認		調査	
3	実習にあたっての注意事項 まとめ					事前：実習内容の調査 事後：実習の注意点を確認		まとめ	
4	実習にあたっての注意事項 発表（パワーポイント）					事前：パワーポイントの準備 事後：実習の準備		発表	
5	近隣施設への実習 1					事前：近隣施設の調査 事後：見学・実習の反省		実習	
6	近隣施設への実習 2					事前：継続して実習 事後：見学・実習の反省		実習	
7	近隣施設への実習 3					事前：継続して実習 事後：見学・実習の反省		実習	
8	近隣施設への実習 結果・まとめ					事前：実習内容のふり返り 事後：反省と記録		まとめ	
9	近隣施設への実習 発表会（パワーポイント）					事前：発表の準備 事後：実習で得たものの確認		発表	
10	社会教育施設実習準備 施設概要等の調査					事前：施設概要の確認 事後：調査内容のまとめ		講義・調査	
11	社会教育施設見学					事前：まとめの確認 事後：見学内容のまとめ		見学・まとめ	
12	森の里公民館実習 1					事前：実習準備 事後：実習内容のふり返りと反省		実習	
13	森の里公民館実習 2					事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省		実習	
14	森の里公民館実習 3					事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省		実習	
15	森の里公民館実習 4					事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省		実習	

16	森の里公民館実習 5	事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省	実習
17	森の里公民館実習 6	事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省	実習
18	森の里公民館実習 結果・まとめ	事前：実習全体のふり返りと反省 事後：実習のまとめ	まとめ
19	森の里公民館 発表会（パワーポイント）	事前：まとめに基づき発表準備 事後：実習の課題を確認	発表会
20	厚木南公民館実習準備 施設概要等の調査	事前：施設概要の確認 事後：調査内容のまとめ	調査
21	厚木南公民館見学	事前：まとめの確認 事後：見学内容のまとめ	見学
22	厚木南公民館実習 1	事前：実習準備 事後：実習内容のふり返りと反省	実習
23	厚木南公民館実習 2	事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省	実習
24	厚木南公民館実習 3	事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省	実習
25	厚木南公民館実習 4	事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省	実習
26	厚木南公民館実習 5	事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省	実習
27	厚木南公民館実習 6	事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省	実習
28	厚木南公民館実習 結果・まとめ	事前：実習全体のふり返りと反省 事後：実習のまとめ	まとめ
29	厚木南公民館実習 発表（パワーポイント）	事前：まとめに基づき発表準備 事後：実習の課題を確認	発表会
30	実習に基づき社会教育士・主事についてまとめる	事前：実習における課題の確認 事後：まとめを通して資格確認	まとめ
教本： 特になし		参考文献： 実習中に指示する	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 具体的には①社会貢献・地域貢献をしたか。②社会教育施設の基本的知識・能力がついたか。③多様な領域での活かせるコーディネート力がついたか。 実習状況（50%）、まとめの発表（50%）で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 社会教育施設、特に公民館は行事が土日となり、実習も必然的に土日となるのが前提となる。またパワーポイントによるまとめの発表も行う。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	1 年次 半期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	生 涯 学 習 概 論 I (Life Learning I)						科 目 分 類	社 会 教 育 主 事 ・ 社 会 教 育 士 科 目	
担 当 教 員	夏 目 千 恵 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>生涯学習は、わたしたち一人一人が自らすすんで行うことを基本とするものであり、できるだけ自分にあったやり方を選びながら生涯を通じて行うものです。また、学校や地域社会の中で行われるだけでなく、わたしたちのスポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動などの中でも行われるものです。「生涯学習」について学んでいきます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>(1)生涯学習・社会教育関係施設の目的・役割等について説明できる。(2)生涯学習・社会教育関係施設における学習成果の活用支援について説明することができる。(3)学習プロセスにおいて提供すべき学習支援情報の種類や留意点等について説明することができる。以上3点が本科目の目標です。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分	
2	生涯学習とは何か					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分	
3	生涯にわたる人間形成					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分	
4	生涯学習を支える思想					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分	
5	生涯学習の現代的課題					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分	
6	生涯学習の多様な学習方法					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分	
7	行政による生涯学習の振興					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分	
8	民間団体・機関による生涯学習支援					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分	
9	生涯学習支援としての大学開放					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分	
10	生涯学習にかかわる人的支援					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分	
11	施設に基づいた生涯学習活動					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分	
12	職業能力開発の生涯学習					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分	
13	伝統として息づく日本の生涯学習					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分	
14	諸外国の生涯学習					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分	
15	まとめ					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
香川正弘・鈴木真理・永井健夫編著「よくわかる生涯学習 改訂版」ミネルヴァ書房					な し				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 試 験 (60%)、レ ポー ト (20)、平 常 点 (20%)。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
できるだけ博物館や美術館を訪問し、学芸員の仕事や社会教育士(主事)の仕事を理解すること。									
オ フ ィ ス ア ワー :									
月曜日のお昼休み									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	生涯学習概論Ⅱ (Life Learning Ⅱ)						科目分類	社会教育主事・社会教育士科目		
担 当 教 員	夏目 千恵子									
履 修 条 件	前提科目	生涯学習概論Ⅰを受講していること								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>生涯学習論Ⅰを受けて、生涯学習と社会教育、学校教育などの関係を明らかにし、次いで、わが国の社会教育の歴史を辿りながら生涯学習の現在をできるだけわかりやすく、できるだけ具体的に解説します。生涯学習の方法や社会教育行政の特質、社会教育計画、生涯各期の教育課題、生涯学習と社会教育をめぐる問題についても概観します。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>(1)生涯学習、社会教育、生涯教育、生涯学習社会等の概念について説明できる。(2)生涯学習と社会教育・家庭教育・学校教育との関係について説明できる。(3)生涯学習推進に関わる法令、行政の仕組み、施策について説明できる。(4)社会教育の意義、内容、方法・形態について説明できる。(5)社会教育関係の指導者としての社会教育主事、司書、学芸員、社会教育委員、公民館主事、青少年教育施設の指導系職員、ボランティア・リーダー等の職務や役割について説明できる。以上5点がこの授業の目標です。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎						○				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション ー授業のテーマや到達目標などについて解説するー					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分		
2	生涯教育論の登場					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分		
3	生涯学習と社会教育					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分		
4	生涯学習と社会教育の歴史(1)					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分		
5	生涯学習と社会教育の歴史(2)					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分		
6	生涯学習と学校教育					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分		
7	生涯学習関連行政の仕組み					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分		
8	生涯各期の教育課題					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分		
9	生涯学習と社会教育の計画					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分		
10	生涯学習の方法と内容					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分		
11	学習プログラムの編成					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分		
12	生涯学習と社会教育施設					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分		
13	生涯学習と社会教育職員					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分		
14	生涯学習と社会教育をめぐる課題					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分		
15	まとめ					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分		
教本： 佐藤晴雄著『生涯学習概論』学陽書房2020年 第2次改訂版					参考文献：					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 試験（60%）、レポート（20%）、平常点（20%）。</p>										
<p>学生へのアドバイス： 生涯学習論Ⅰを修得した上で、生涯学習論Ⅱを履修してください。</p>										
<p>オフィスアワー： 月曜日のお昼休み</p>										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	生涯学習支援論Ⅰ (Support for Lifelong Learning Ⅰ)						科目分類	社会教育主事・社会教育士科目	
担 当 教 員	夏目 千恵子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 多様な学習者の特性に応じた学習支援に関する知識と技能の習得を目的とし、教育理論、効果的な支援方法、学習プログラムの構成、参加型学習の実践やファシリテーション技法などを扱う。特にⅠでは、生涯学習および社会教育に関する学習理論の理解を基本課題とする。教育学の基礎理論、成人教育理論、職業教育・キャリア教育、さらに青少年・高齢者・ボランティア活動に関わる学習理論を学び、生涯学習・社会教育の専門的支援職員である社会教育主事として活動するために必要な考え方や知識、能力、資質の基礎を培うことを目指す。授業は課題解決型学習やグループワーク（以下、GW）を中心に進めるため、継続的な出席が不可欠であり、遅刻は原則として認められない。また、GWを通じて課題解決を行うため、事前に自らの考えを整理する予習と、学習内容を振り返る復習を必ず行うことが求められる。									
<b>授業目標：</b> テーマを社会教育主事資格取得希望者のための「生涯学習の支援理論入門」とし、以下の3点を到達目標とする。 1. 「生涯学習・社会教育支援のための生涯学習理論の考え方や内容・方法」について理解できたか。 2. 多様な「学習者」への効果的な学習支援方法の理解を深め、それをもとに学習者を支援する内容や方法を考えることができたか。 3. さらに今後の「学習者」のための効果的な学習支援方法や「社会参加」の方法や内容について考えることができたか。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	生涯学習支援のための教育学基礎理論①—生涯学習と家庭教育・社会教育との関係を学ぶ					事前：各教育領域の講読 事後：GWの振り返り		講義45分、GW等30分 講義15分	
2	生涯学習支援のための教育学基礎理論②—生涯学習理論					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義45分、GW等30分 講義15分	
3	生涯学習支援のための教育学基礎理論③—成人教育の学習理論					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義45分、GW等30分 講義15分	
4	生涯学習支援のための教育学基礎理論④—キャリア教育・職業教育理論					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義45分、GW等30分 講義15分	
5	生涯学習支援のための社会教育関係職員—社会教育主事・社会教育士・社会教育委員					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義45分、GW等30分 講義15分	
6	生涯学習支援のための社会教育行政組織と財政基盤—キャリア教育・職業教育理論					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義45分、GW等30分 講義15分	
7	社会教育施設1—公民館の歴史・現状・課題					事前：公民館の役割等調査 事後：PBLの振り返り		現地視察45分、PBL等30分 講義15分	
8	社会教育施設2—博物館・図書館の歴史・現状・課題					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義45分、GW等30分 講義15分	
9	青少年の生涯学習支援理論と施策の展開と課題					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義45分、GW等30分 講義15分	
10	高齢者の生涯学習支援理論と施策の展開と課題					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義45分、GW等30分 講義15分	
11	生涯学習・社会教育と学習者理解・人材育成1—ボランティア活動の理論とその実践					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義45分、GW等30分 講義15分	
12	生涯学習・社会教育と学習者理解・人材育成2—「大人の生きる力」・「成人力」・「キー・コンピテンシー」理論					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義45分、GW等30分 講義15分	
13・14	地域住民の生涯学習支援（学校への支援及び学校との連携・協働）とその課題及び課題解決方法考察、生涯学習支援における学校教師の役割と専門性の課題					事前：協働活動の事例収集 事後：GW及びPBLの振り返り		講義・PBL90分（校外授業） PBL・GW等60分、 発表15分、講義15分	
15	生涯学習支援の今後の課題—本授業のまとめと将来のための学習課題					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義45分、PBL等30分 講義15分	
<b>教本：</b> 鈴木真理・津田英二 編『生涯学習の支援論』学文社、2003年 <b>参考文献：</b> 佐藤晴雄著『生涯学習概論（第2次改訂版）』学陽書房、2003年 生涯学習・社会教育行政研究会編『生涯学習・社会教育行政必携』（平成27年度版）第一法規									
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 試験（60%）、レポート（20%）、平常点（20%）。到達目標が達成できたかを評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> GWや発表を採り入れた授業を行うため継続的な出席が必要。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日にお伝えします。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	生 涯 学 習 支 援 論 II (Support for Lifelong Learning II)						科 目 分 類	社 会 教 育 主 事 ・ 社 会 教 育 士 科 目	
担 当 教 員	夏 目 千 恵 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	生 涯 学 習 支 援 論 I を 受 講 し て い る こ と							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>本授業は、多様な学習者の特性に応じた支援を行うために必要な知識と技能の習得を目的とし、教育理論、効果的な支援方法、学習プログラムの構成、参加型学習の実践、ファシリテーション技法などを扱う。IIでは、Iで培った生涯学習および社会教育に関する学習理論の理解を基盤に、その応用として、学習プログラムの編成や参加型学習の実践、ファシリテーション技法の習得を中心的な課題とする。</p>									
<p>授業目標：テーマを社会教育主事資格取得希望者のための「生涯学習の支援実践の基礎」とし、以下三点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯学習・社会教育支援に関わる諸学習理論の考え方や内容・方法について基礎的に理解する。</li> <li>2. 参加型学習を中心とした学習プログラムの構成や進め方を理解し、それを踏まえて多様な学習者を支援する内容や方法を考察できる。</li> <li>3. ファシリテーション技法の基本的な知識と技能を習得し、学習支援の場面で活用できる。</li> </ol>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	I. 学習プログラムの編成、参加型学習の実践 ①学習プログラムのデザインー学習プログラムのしくみと構造					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義30分、GW等45分、 発表15分	
2	②学習プログラムの「企画・立案」力・学習プログラムの「デザイン」力・ 学習プログラムの「運営」力					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義30分、GW等45分、 発表15分	
3・4	③④参加型学習の20の手法ー参加型学習はどのように進められるのか。					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義30分、GW等45分、 発表15分（×2）	
5・6	⑤⑥参加型学習の目的及び支援策 ー参加者への活動支援策検討及びスタッフの関わり方ー					事前：参加者と企画者の支援についての 考察 事後：PBL・GWの振り返り		現地視察 90 分 PBL・GW等 75 分 講義 15 分	
7	⑦参加型学習の全体像ー3ステージ・4エンジン					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義30分、GW等45分、 発表15分	
8・9	II. ファシリテーション技法と参加型学習 ⑧協働を促進するファシリテーションの技術の習得及び参加型学習への考 察 ⑨発展するファシリテーション応用分野					事前：協働活動の調査 事後：PBL・GW・発表の振り返り		現地視察・実習 90 分 PBL・GW・発表 70 分 講義 20 分	
10	⑩場のデザインのスキルー場をつくり、つなげる					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義30分、GW等45分、 発表15分	
11	⑪対人関係のスキルを					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義30分、GW等45分、 発表15分	
12	⑫構造化のスキルーかみ合わせ、整理する					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義30分、GW等45分、 発表15分	
13	⑬合意形成のスキルーまとめて、分かち合う					事前：テキストの通読 事後：GWの振り返り		講義30分、GW等45分、 発表15分	
14・15	⑭⑮参加型学習プログラムの編成と課題解決を考えたファシリテーション の実践に向けてー本授業のまとめ					事前：プログラム作りに向けての現地 状況把握及び支援策の検討 事後：GW・発表の振り返り		講義30分、GW等45分、 発表15分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
広瀬隆人 他著『生涯学習支援のための参加型学習（ワークショップ）のす すめー「参加」から「参画」へ』ぎょうせい					佐藤晴雄著『生涯学習概論（第2次改訂版）』学陽書房				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
試 験 (60%)、レポ ー ト (20%)、平 常 点 (20%)。到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
実 習 や GW を 伴 う 授 業 の た め、継 続 的 な 出 席 が 必 要 と な る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に お 伝 え し ま す。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ボランティア論 (Volunteer)						科 目 分 類	社会教育主事・社会教育士科目	
担 当 教 員	仲 伯 維								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
<b>授業概要：</b> 「ボランティア論」は現代社会におけるボランティアの意義と実情を学ぶことを目標とし、学生たちの自主性と社会参加意思を高める授業である。大きな災害が起きたときは、国や自治体などの公共機関のほかに、ボランティア団体による活動が、被災地の救援や救護、復旧に大きな役割をはたしている。本講義は改めて防災への関心を喚起し、意識を高める必要があるという考えのもと展開している。また、救急救命講習を受ける学生が増えている現状も鑑み、救援活動の実践的な学習を通じて、ボランティア活動の内容や知識が身に付くよう授業を行う。単なる座学の学習に終わらず、厚木市社会福祉協議会で登録している大学の任意団体「松蔭大学地域ボランティア」の準隊員として、課外の自由時間で実際にボランティア活動（15時間以上）を体験することを通じてボランティアの世界を味わい、自分なりの「ボランティア論」を作り上げ、21世紀を生きる我々の生き方とともに考えることを目指す。									
<b>授業目標：</b> 松蔭大学建学精神「知行合一」の理解と地域貢献による自分なりの考え方をもちながら、具体的な達成目標としてはさしあたり次のようなことを考えているので、各自、自分なりの学習目標を設定して受講してください。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①ボランティア活動を実際に体験し、その体験を振り返り、自分のボランティア・イメージを検証する</li> <li>②ボランティアの基本的な理念を理解する</li> <li>③ボランティアのいくつかの活動分野について知る</li> <li>④ボランティアを受ける側の考えとニーズを理解する</li> <li>⑤ボランティア活動をする際に必要な態度とルールを理解する</li> <li>⑥災害と防災に関する基礎知識を修得し災害対応能力の基礎を養う</li> <li>⑦21世紀におけるボランティアの社会的意義について考える</li> <li>⑧ボランティアに関する自分なりの考え方を確立する</li> </ol>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション（開講の趣旨、学習の進め方、約束事） ボランティアの理念を講ずる。					事前：なし 事後：配布資料を次回までざっと読む		講義90分	
2	ボランティアの意義を考える。ボランティアの「四原則＋ワン」について理解する。【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義60分、 ディスカッション30分	
3	配布資料「ボランティアの楽しさ」を読み考える。 【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義70分、 ディスカッション20分	
4	大学におけるサービスマナーとボランティア教育					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義60分、 ディスカッション30分	
5	ボランティアの組織作り：P→G→O→Cトレンド					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義60分、 ディスカッション30分	
6	無償ボランティアと有償ボランティア					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義20分、実習50分、 ディスカッション20分	
7	地域ボランティア活動：子ども・若者の心に寄り添う社会教育					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義90分	
8	災害時救援ボランティア組織化実現に向け					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義20分、実習50分、 ディスカッション20分	
9	ワークショップ・クロスロード【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義70分、 ディスカッション20分	
10	イギリスにおけるギャップイヤー（Gap Year）の成立と発展。日英ギャップイヤー					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義70分、 ディスカッション20分	
11	被災地での活動報告（福島県浪江町、南相馬市、二本松市）					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義90分	
12	ワークショップ：避難所運営シミュレーション・HUG					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義70分、 ディスカッション20分	
13	ボランティア活動は主体的・自律的で相互実現を図る活動・花田えくぼ氏の詩					事前：配布資料の事前読む 事後：発表準備、最終レポート準備		講義50分、 ディスカッション40分	
14	ボランティアについて考えたこと、体験活動成果発表（感じたことをノートにまとめ、復習シート配布）、最終レポート指示					事前：発表準備 事後：発表準備		講義20分、 発表準備70分	
15	ボランティアレポート（ボランティア体験活動報告書）					事前：発表準備 事後：最終レポート準備		講義20分、発表70分	

<p>教本： 西尾雄志・齋藤ゆか・高見大介編著（2025）『「利他」から考える ボラン ティア学入門』、ミネルヴァ書房。</p>	<p>参考文献： 岡本栄一監修（2005）『ボランティアのすすめ 基礎から実践まで』ミネル ヴァ書房。</p>								
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業には極力すべて出席すること</li> <li>2. ボランティア体験活動（課外活動）を要求しないが、15時間以上行った場合には評価の上加点する。</li> <li>3. 以下の4項目を参考にしながら、各自の自己評価を尊重して評価する。 ただし、ボランティア体験活動についての評価ではなく、ボランティアについて学んだ内容に関して評価する。</li> </ol> <table border="0" data-bbox="191 336 1037 454"> <tr> <td>平常点（実施するミニレポートの内容）</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>ボランティア体験活動報告書（15時間以上の活動量と振り返りの内容）</td> <td>（ボーナスポイント）</td> </tr> <tr> <td>最終レポート（1,200字以上の分量と内容）</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>提出物（学習目標、活動計画書、活動報告、自己評価シート等）</td> <td>20%</td> </tr> </table>		平常点（実施するミニレポートの内容）	30%	ボランティア体験活動報告書（15時間以上の活動量と振り返りの内容）	（ボーナスポイント）	最終レポート（1,200字以上の分量と内容）	50%	提出物（学習目標、活動計画書、活動報告、自己評価シート等）	20%
平常点（実施するミニレポートの内容）	30%								
ボランティア体験活動報告書（15時間以上の活動量と振り返りの内容）	（ボーナスポイント）								
最終レポート（1,200字以上の分量と内容）	50%								
提出物（学習目標、活動計画書、活動報告、自己評価シート等）	20%								
<p>学生へのアドバイス： 授業についての質疑、活動の交流・討論など、ボランティア学習にふさわしい受講生の積極的な授業参加を期待する。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									